

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200584	
法人名	社会福祉法人登米市社会福祉協議会	
事業所名	認知症高齢者グループホームほほえみ	
所在地	宮城県登米市石越町南郷字新石沢前47番地3	
自己評価作成日	平成29年 9月15日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事の時に家族や地域の方々に参加して頂ける様に招待状をお渡ししたり、同じ敷地内の特養やデイサービスとも交流があり、お互いに遊びに行ったり来たりをしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東北本線石越駅より車で5分、迫川沿いの田園の広がる自然環境の良いところにホームがある。開設から12年である。同敷地内にデイサービス、特別養護老人ホーム「風の路」があり、協力体制にある。運営主体の社会福祉協議会石越支所があり、福祉の発信基地、地域の拠点となっている。市の施設では、委託事業の高齢者の短期宿泊や一時預りを行うサービス(家族支援レスパイト事業)に取組んでいる。運営推進会議のヒヤリハット事例の意見をサービスに活かし、ボランティアを取り込み、ボランティア(傾聴、歌、踊り等)交流がある。協力医との連携がある。四季折々の花を愛で、季節行事の食事会や誕生会等々で微笑みが絶えない事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会	
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階	
訪問調査日	平成29年10月17日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームほほえみ )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で検討を行い、理念の変更を行いましたが入居者様の「笑顔」を大切にしたいとの思いは変わらず継続して行っております。	ほほえみ独自の理念を掲げている。「私たちは一人ひとりが毎日笑顔で過ごせるよう寄り添うことを第一に考えます」は、年度初めに見直し、職員のアンケートを参考に新しく生まれ変わった理念である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	GHの行事に地域の方をお呼びしたり、入居前に住んでいた地域の敬老会に参加したりと交流を続けております。	運営推進会議をはじめ、敬老会・石越夏祭り・花見等に参加してる。当グループホームの行事には地域の人を招待し、町内のボランティア・コスモス会の歌や踊りを披露し地域の交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護110番」の窓口を設けて相談を受け付けたり、地域の方々の依頼を受けて「認知症」について出前講座も行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、福祉事務所や地域包括支援センター、地域の代表者や入居者、家族の代表の方にも参加して頂き有意義な意見交換を行っております。	ヒヤリハット事例の検討や地域の行事、事業所行事の話がでる。誤嚥性肺炎の勉強会や高齢者自立支援総合事業等の情報を得るなどの会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年6回行われている、運営推進会議の場を利用して相談を行ったり、市の委託事業「介護家族支援レスパイト事業」の受け入れも行い、良好な関係を築いております。	運営推進会議を通して現状を知って貰い、敷地内の石越支所との連携がある。会議には支所長や福祉課長等が出席し、市の委託事業の「介護家族支援レスパイト事業」の受け入れを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室の施錠は夜間のみとし、昼間は全ての窓やドアを開錠しております。ベットの柵等のいかなる身体拘束も行っておりません。	研修で身体拘束の弊害を理解し、ベッド柵やセンサーがない。玄関や窓、ドアは開放し、施錠は夜間だけである。敷地内のデイサービスや特養老人ホームとの見守り協力がある。交番とも連携がある。窓から出る事例があったが、補助鍵の工夫をした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や講習会に参加したり、ミーティング時に自分たちのケアの見直しを行い、常に虐待が見過ごされる事の無いように注意を払っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	保佐人が付いておられる方が一人入居されておりますが、その方を通して学ぶことが多く常にミーティング等で話し合いを行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と計画作成担当者で対応しており、何度か自宅に足を運び入居者や家族に対して十分な説明を行い理解、納得して頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表も参加して頂いており、そこで出された意見や要望を運営に反映させております。また、家族が来所された折には情報交換を行い、意見や要望を伺うようにしております。	家族から趣味の編み物や縫物、折り紙手芸を要望され、支援している。職員の休憩室が必要じゃないかと家族から出た。本部に相談し現在検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全員参加でケアカンファやミーティングを行い意見や提案を話し合う機会を設けている。自分達では解決できない事案については直ぐに本部に相談し解決を図っている。	年末年始休暇のローテーションを本部に上申し、手当の支給や振替え休日で解決した。職員から夜に眠れない入居者の話があったが、昼間趣味等で居眠りを少なくする支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により職員個々の状況の把握に努め、働きやすい職場環境の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習会の機会には声掛けを行い、参加を勧めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県のGH協や登米市の介護保険事業者連絡協議会に入会しており、他の入所施設との交流や情報交換の機会が増え、自分たちのサービスの質の向上に繋げております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から何度か自宅に伺い、本人に納得していただける様に会話の機会を設けたり、入居後には気軽にお話出来る環境作りを行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から何度か自宅に伺い、家族の要望を聞き入居後もGHIにお越しになった時など情報交換を行いながら、どんな些細なことでも話せる雰囲気作りを行い、信頼関係づくりに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めの段階で家族の要望や出来る事、自分たちの出来る事、出来ない事を話し合い本人にとって一番良いケアを行う為に他のサービスや社協内の他の施設との協力体制を取ったケアを行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆様も職員も同じ家族の一員として皆さんに役割を持って頂き、出来る範囲での家事をお願いしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に行事に参加して頂いたり、家族での外出を支援したり、面会時には家族でゆっくり過ごしております。また、入居者様の日々の様子を毎月お便りでご家族にお知らせしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた地域の行事に出掛けたり、GHの行事にも地域の方をお呼びする事で交流が途切れない様になっています。	以前住んでいた所の敬老会や夏祭りに参加している。毎年3月長根地区のいきいき祭りや石越祭り等地域の行事に参加し、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々一人一人の趣味や興味のある事を把握して、毎日の生活の中で入居者の方々の橋渡しに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了するのは入院か他の施設への入所が多いので、社協の施設入所や入院時には様子を見に伺っております。退所時にご家族にはいつでもご相談下さいと話をさせて頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方々の希望や要望は散歩やお茶を飲みながら等、一対一で伺うようにしております。この時の希望や要望は直ぐに家族で話し合い検討を行います。また、月に一度は傾聴ボランティアの方にも来て頂いております。	散歩や日向ぼっこ、お風呂の時に自宅へ帰りたいたいと聞くことが多い。「エビ餅が食べたいから帰りたいたい」という思いに応えたが、本音はちょっとの時間で良いから家を見たいということが分かった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より家族や本人に情報を収集します。また、入居されてからは昔の話をよく聞く等、情報収集に努めこれまでの生活の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れを把握し、毎日の記録を個人ごとのケースや日誌に記録し、職員全員で情報の共有を行い現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が本人や家族の意向を聞きケアカンファレンスで話し合いケアプランを作成している。3ヶ月ごとに見直しを行い家族の同意を得ています。	家族と主治医の意見を聞き、全員で話し合いケアプランを作成している。短期長期の目標を立て、3ヵ月毎にモニタリングし計画を見直し、家族の同意をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個別にケース記録に記録する事で職員全員で情報を共有することができ、実践や介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ敷地内にあるデイサービスや特養等、他の施設と連携が取れており、お互いの交流を通してサービスの多様化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(敬老会、お祭り等)に参加したり、地域の方にボランティアに来て頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と話し合い、今まで通りのかかりつけ医を受診される方にはGHの情報を提供し、GHの協力医に転移される方にはこちらで対応しております。	かかりつけ医は、家族にお願いしている。健康データは提供している。結果は記録し保存している。協力医は近くの診療所や医院である。口腔ケアは歯科医の訪問がある。かかりつけ医に4名、協力医は5名である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化で看護師の指示を仰ぎたい時には、隣接されている特養やデイサービスの看護師に相談し、直ぐに病院受診を行い入居者の方々が適切な看護を受けれる様に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居者の方の情報を医療機関に提供し、入院後は出来る限り面会に行き、その都度病院関係者との情報交換に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	24時間の医療連携が困難な事と看護師がいないために看取りは行っておらず、重度化した場合は家族と話し合い、特養、老健等への入所や医療機関への入院を支援しています。状態が重度化されてきている方については段階的に説明し、合意を頂いております。	当初から看取りは行わない方針で、重度化した場合の方法は家族に説明している。目標達成計画に上げた同意書が完成し、契約時に同意を貰う体制になった。地域包括から指導があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは職員全員が理解しており、訓練も定期的に行い、AEDの研修も行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は昼間だけでなく夜間も想定して行なっております。地域の方々の協力もお願いしており、職員全員が避難方法を熟知しております。	年2回の避難訓練を実施している。浸水災害時は、高台の公民館が指定避難所になっている。敷地内にある3事業所の災害時の連携体制を含め、夜間想定訓練を実施していただきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に合った声掛けを行い、排泄時や入浴時には特に誇りやプライバシーを損ねない様につけ対応しております。	さん付けで呼んでいる。排泄の失敗は、そつと誘導している。入浴時は特に配慮している。電話の時は側から離れ、面会時は個室でゆっくり話ができるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方々と日頃から信頼関係を築く努力をしており、入居者の方々が何でも話せる雰囲気作りを心掛けており、思いや希望を話して頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活のリズムを把握し、その方のペースで穏やかにのんびりと生活して頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日気持ちよく過ごして頂くために、自分で洋服が選べない方や整容が出来ない方にはお手伝いを行い、季節に合った身だしなみをして頂く様に支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	特養の栄養士が作成した献立を参考に入居者の方々の希望にあったものや季節にあったものを提供しております。誕生日や行事の時には特別メニューをお出ししております。	週に2回ほど食材を発注して、季節を取り入れた献立表を栄養士が作成している。夏場は、寿司が人気である。誕生会はチラシ寿しや茶碗蒸し、夏祭りの焼きそばたこ焼き等が楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事の摂取量や水分量に気をつけ、十分な栄養や水分が摂取出来る様に支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや入れ歯の洗浄を、自分で出来る方は見守りで、介助が必要な方は職員が手伝いをして対応しております。又、歯科医による口腔ケアも行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し個々の方の排泄パターンを把握し、職員が声掛けや誘導を行い自立に向けての支援を行っております。	職員の何気ない声掛けと誘導でトイレでの自立排泄を促している。現在は綿パンツ3人、残り6人はリハビリパンツとパッド併用、夜寝るときはオムツを使う。夜間ポータブルトイレ使用が1名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運度や水分を摂って頂く事や、毎日乳製品を摂取して頂く等、一人一人に合わせた便秘予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望にあわせて入浴日や時間を決めております。入浴が嫌いな方にも声掛けや説得を行い納得して頂いてから入浴をして頂ける様に支援を行っております。	毎日好きな時間に入浴できる。入浴回数は週に2～3回で、入浴拒否の人には、時間をかけ、職員を変えるなどしている。湯に浸かれば気持ちよくなり会話も弾む。1対1で思いを聞きだしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は本人の意思に任せしております。お昼寝も本人の生活習慣として定着している方のみ行っております。就寝時には居室の温度調節を行い気持ちよく眠れるように支援を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬管理綴りで入居者の方々の薬について把握しており、服薬時には手渡し又は介助にて飲み込むまでの見守りを行い、服薬を確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の皆様には茶碗拭きやテーブル拭き、廊下のモップがけ等の役割を持って頂いたり、自宅と同じように居室におやつを常備して食べられたり、好きなぬり絵やパズルを行えるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿って散歩やドライブ、買い物等に出掛ける機会を支援しております。又、家族との外出や外泊時には車椅子を貸し出す等の支援も行っております。	南方のアヤメ園、長沼のハス、石越沼のハス等を見に行ったり、昔の自宅を見に行く。散歩は、東屋のある敷地内で日向ぼっこをかねて散策している。スーパーに買い物や特老に月に一度の出店で買い物したり、家族と外出や外泊をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かっており、外出時や買い物に出かけた時には、本人がお金を持って買い物ができるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかける事が出来ない方が多いので家族に電話をかけたいと話された時には、職員が番号を押して受話器を手渡しております。手紙を出したい時には職員がお手伝いをして投かんしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の清掃をこまめに行い、広い窓からは光や風を適度に取り入れ、エアコンでの温度調整もこまめに行っております。	食堂兼居間には、温湿度計付の大きな時計が目線に配置されている。エアコンで空調管理をしている。壁には入居者が作った季節の貼り絵(月にうさぎ、すすきにコスモス)がある。壁には本物そっくりな熟れた柿が飾られてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間での席を気の合った方々で座って頂いたり、廊下や玄関等に椅子を置き気の合った人たちで話をしたり、独りで過ごしたい時には独りで過ごさるよう空間を工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具の持ち込みを、心よく過ごせる空間の工夫を行っております。入居してからは写真や自分で作成したカレンダーやぬり絵等を飾っております。	使い慣れた机、ベット、タンス等が持ち込まれている。手作りのカレンダーや家族の写真等が飾ってある。各部屋の入り口には折り紙で作った小さな箱の鈴が下がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、手すりも設置され、トイレの表示は大きな文字でわかり易いように工夫しております。		